

11月17日（日曜日）

参加費無料

申込不要

民藝運動とウェルビーイングなまちづくり

— 吉田璋也と式場隆三郎、二人の医師が手がけた地域デザインの可能性

時間 | 13:30～17:00 (開場13:00)

場所 | 鳥取市役所 本庁舎2階・鳥取市民交流センター
麒麟スクエア多目的室1 ※市役所駐車場 利用可

定員 | 定員100名 先着順

パネリスト

山田 真理子 医療法人式場病院

木谷 清人 (公財)鳥取市文化財団理事長／(公財)鳥取民藝美術館常務理事

孫 大輔 鳥取大学医学部地域医療学講座 准教授／日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医

コーディネーター

石田 陽介 鳥取大学地域価値創造研究教育機構 准教授／ギャラリーコンパ主催スタッフ

司会

竹内 潔 鳥取大学地域学部 准教授／鳥取藝住実行委員会代表

第1部

基調講演／13:30～15:20

開催趣旨 | 13:30～13:40

アートと医療の汽水域をまちにひらく — 民藝運動における地域デザインの可能性

石田 陽介

講演1 | 時間／13:40～14:10

「吉田璋也の民藝運動とまちづくり」 木谷 清人

講演2 | 時間／14:15～14:45

「式場隆三郎の地域づくりにおける可能性」 山田 真理子

講演3 | 時間／14:50～15:20

「民藝運動と利他 - 地域医療のMINGEIモデルの提案」 孫 大輔

第2部

パネルディスカッション／15:30～17:00

パネリスト | 山田 真理子 ・ 木谷 清人 ・ 孫 大輔

コーディネーター | 石田 陽介 司会 | 竹内 潔

「アートと医療の汽水域をまちにひらく — 民藝運動における地域デザインの可能性」 石田 陽介

本フォーラムでは、近代を迎えた日本において柳宗悦らによって始動した民藝運動の姿を見つめ、民藝運動をリードした二人の医師、吉田璋也と式場隆三郎の取り組んだ地域デザインに焦点を当てながら、私たちのウェルビーイング(幸福で健康)なまちづくりのこれからを見出していきたいと考えます。本講演者として、民藝運動をリードした式場隆三郎の研究における第一人者である山田真理子氏を鳥取にお招きします。また、鳥取で新作民藝運動を起こした吉田璋也の足跡を深く研究し広く発信し続ける鳥取民藝美術館常務理事の木谷清人氏と、鳥取大学医学部准教授として新たに地域医療のMINGEIモデルを提案する孫大輔医師らと共に、民藝運動におけるこれまでの地域デザインの軌跡を見つめながら、私たちのこれからの暮らしづくりや、それを叶えるまちづくりを共に語り合います。

「汽水域アートシェアリング」とは 人が新たな人間関係を築こうとする時、情報共有はともかく、感情の共有までもは難しいものです。「相手を理解するべき努力は最大限するべきだが限界もある。そうした限界を超えて、共感や驚きを抱けるのが芸術の力ではないか」とある研究者は述べましたが、アートの鑑賞や創造を共に行う体験は、驚きや喜びといった様々な感情の共感を促し、人の間に横たわる障壁を溶かしうる可能性を多くはらんでいます。そうしたアートのシェア体験がもたらす効果を活かし、例えるならば海と川、それぞれに生息する異なる領域の水中生物群が、海水と真水とが混交する河口付近にて互いに交わりながら豊かに共生しうる汽水域のような隔たりのない人間環境を、私たちが暮らすこの地域社会に築けないものでしょうか。アートシェアリングがもたらす共感力を活かした地域創生プロジェクト「汽水域アートシェアリング」を、鳥取において2022年より始動しました。

出演者プロフィール



木谷清人（きたに・きよひと）

〔(公財)鳥取市文化財団理事長／(公財)鳥取民藝美術館常務理事〕

早稲田大学理工学部建築学科卒業。会社経営の傍ら鳥取県東部地域の近代建築の調査研究に携わり、そこから鳥取で新作民藝運動を起こした吉田璋也の研究を始めることになる。学会・雑誌等で研究発表・報告を重ね、吉田の民藝運動はデザイン運動であり、美による社会改革運動に至る幅広い活動だったことを明らかにしてきた。編・著・執筆に『鳥取建築ノート』（1991）、『Shoya YOSHIDA』（英文・2012）、『吉田璋也の世界』（2015）『民藝運動の建築への視座とその源流』（2016）等、展示に『NEXT 80 YEARS-Shoya YOSHIDA』（ヘルシンキ・2012）、『濱崎少年の見た「はるかな鳥取」』（鳥取市歴史博物館・2014）、『吉田璋也の民藝―美の王国を夢見て』（鳥取民藝美術館・2020）等がある。



石田陽介（いしだ・ようすけ）

〔鳥取大学 地域価値創造研究教育機構 准教授／ギャラリーコンパ主催スタッフ〕

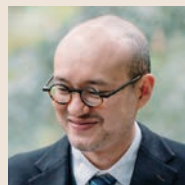
九州大学大学院統合新領域学府ユーザー感性学専攻博士課程修了。精神科総合病院におけるアートセラピスト勤務を経て、くらしの中に芸術養生が息づくウェルビーイング(健康で幸福)な地域社会の仕組みづくり「ソーシャル・アートセラピー」の実践研究活動に取り組む。鳥取で現在、美術館セラピープロジェクトを推進中。2005年より、「ギャラリーコンパ」を継続し展開する。著書として『芸術養生－ウェルビーイングなまちづくりに活かすアートシェアリング』（今井出版）ほか。日本芸術療法学会認定 芸術療法士（アートセラピスト）。博士（感性学）。



山田真理子（やまだ・まりこ）

〔式場隆三郎研究者〕

学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程（史学専攻）修了。日本銀行金融研究所貨幣博物館、市川市文学ミュージアム、小樽市総合博物館で勤務した後、2019年4月に医療法人式場病院学術研究部／式場隆三郎記念館準備室に入職。式場隆三郎旧蔵資料の整理、保存、調査研究、公開に拘わる業務を担当する。現在は、式場の実践を地域づくりに活かすプログラムを研究中。著書として『式場隆三郎と民藝運動』（式場隆史発行、2022年4月）『式場隆三郎の伝記的研究Ⅰ―立志篇―』『最新精神医学』（世論時報社、2024年9月25日）。



孫大輔（そん・だいすけ）

〔鳥取大学医学部地域医療学講座 准教授／日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医〕

総合診療医（家庭医）。これまで一貫して、地域における対話とウェルビーイングをテーマに活動してきた。2020年に東京から鳥取県大山町に移住。現在、地域医療に従事しながら、教育・研究活動や地域活動に従事。これまで医療をテーマとした短編映画を3本制作した経験がある。著書に『対話する医療－人間全体を診て癒すために』（さくら舎、2018年）、『臨床と宗教－死に臨む患者へのスピリチュアルケア』（南山堂、2023年）、『ダイアログ（対話）のはじめかた：医療・福祉にかかわる人のための対話哲学レッスン』（医歯薬出版、2024）など。一般社団法人コミュニティウェルビーイング研究所代表理事。



竹内潔（たけうち・きよし）

〔鳥取大学 地域学部 准教授／鳥取藝住実行委員会代表〕

2003年茨城県入庁。県内で医療行政と税務に携わった後、東京にある財団法人地域創造へ派遣となり、全国の公立文化施設の支援に関わる。茨城に戻り文化振興担当となるが、約1年後に東日本大震災が発生。これを機に学び直しを決意し、2012年から休職して大学院で文化政策について学ぶ。2017年から現職。現在は「ホスピタリティ・プロジェクト」に関わりつつ、鳥取県・鳥取市をはじめとする自治体の文化政策と地方創生戦略との関係、特に文化・芸術そのものの意義や価値とその利活用をめぐる葛藤に関心を持って研究をしている。